

NTRに関する実証研究

—進化心理学の観点から—

変態学研究会

昨今の日本において NTR は一大性的ジャンルとなっている。しかし、これまでの研究では人々がなぜ NTR を選好するのかは検討されてこなかった。そこで、本報告書は、進化心理学の観点に基づき、人々がなぜ NTR を選好するかを検討することを目的とする。具体的には、「プレイヤーAに感情移入するほど、NTRは選好される」（仮説1）、「プレイヤーCに感情移入するほど、NTRは選好されない」（仮説2）、「NTRによって性的優越感を感じるほど、NTRは選好される」（仮説3）、「NTRによってマゾヒズムの快楽を感じるほど、NTRは選好されない」（仮説4）の4つの仮説をステップワイズ法の重回帰分析で検証した。その結果、仮説2および仮説4は支持されず、仮説1は男性群のみで、仮説3は女性群のみで支持された。以上の結果は、進化心理学の知見は、NTRへの選好を説明する上で一定程度有益ではあるものの、NTRには同知見では拾いきれない部分があることを示唆するものと捉えられる。

1. 序論

寝取り・寝取られ（以下、これら2つを総称してNTRと表記する）というジャンルは、現代の日本において一大コンテンツへと発展している。たとえば、FANZAによって2018年に行われた調査では、同年の同人誌において、「寝取り・寝取られ」が最も人気のあるジャンルであったことが示されている（FANZA, 2018）。

従来 of 学術研究においては、進化心理学が性的行動に関して重要な知見を提示してきた。以下で詳しく述べるように、進化心理学は人々の心的メカニズムは進化の過程において獲得されたものであり、人々の行動や意識は、(少なくとも歴史上のどこかの時点においては) 生存にとって適合的であったが故に形成されたものであると考える（Tooby & Cosmides, 2015）。

直観的に考えると、NTRというジャンルがこれほどまでに人気を博しているという社会的事実、進化心理学の基本的前提と一致しない可能性があるように思われる。つまり、NTRの定義および進化心理学の基本的前提については次章で詳しく検討するが、仮にNTRというジャンルを「自分の相手が第三者に

寝取られるジャンル」と捉えた場合、NTRによって自分（および自分の子孫ないし遺伝子）の生存の可能性は下がるため、生存にとって適合的ではないと考える余地がある。このように考えると、NTRというジャンルの隆盛は進化心理学からは説明できない可能性がある。そのため、このようなNTRという事象を取り上げ、進化心理学の観点からNTRは整合的に説明できるのか、できるとすればどのようにしてかを検討することには、進化心理学の理論的射程に示唆を与えるという点で大きな学術的意義があると考えられる。

そこで以下の本報告書では、まずNTRの定義を行い（第2章）、その後NTRが人気を博している理由として考えられる可能性を既存の議論に基づきいくつか提示する（第3章）。続く第4章では、進化心理学の基本的前提を確認した上で、これらの前提から第3章で抽出した可能性のうち、どれが進化心理学の前提と適合的でありどれがそうでないかを検討する。第5章では、調査手法を検討した上で仮説を提示する。第6章では、実際に行った調査の設計を紹介し、第7章では得られたデータを分析する。第8章では得られた結果を進化心理学の観点から考察する。

2. NTR の定義

2.1 定義をめぐる議論状況

厳密な定義を導入する前に NTR を予備的に定義すると、NTR とは、何らかの関係性にあるプレイヤーが 2 者のうち 1 者が第三者と性的な関係性に入ることと定義できる。別の言い方をすれば、NTR は、①寝取るプレイヤー (プレイヤーA)、②プレイヤーA によって寝取られるプレイヤー (プレイヤーB)、③プレイヤーA とプレイヤーB の行為ないし関係を観察するプレイヤー (プレイヤーC) の三者によって構成されることになる (Figure 1)。

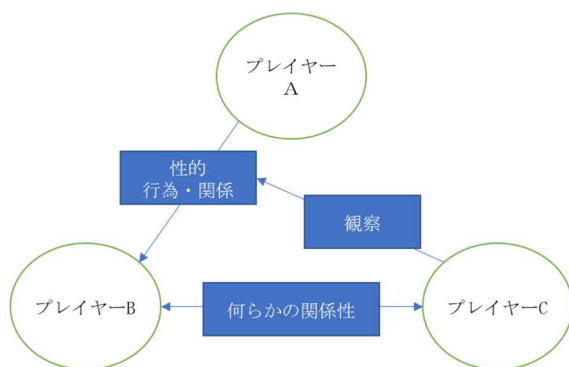


Figure 1 NTRの相関図

しかし、NTR が具体的に何を指すかについては議論がある。そのため上の予備的定義は不十分であり、さらに厳密に検討する必要がある。そこでまず辞書的定義を確認すると、NTR の語源である動詞の「寝取る」とは、「他人の夫・妻・愛人などと合意の上で肉体関係を持つ」とこととされている(大辞林 第三版)。また、より近年の NTR に関する定義としては以下のようなものがある。コトバの意味辞典 (2019) では、「自分が好意を寄せている人が自分以外の誰かと性的な接触を持つこと、それに性的興奮を感じる嗜好」、荒井 (2014) では、「特定の相手のいる女性が、他の男性に寝取られる物語」と定義されている。さらに、はてなブログタグ (n.d.) では、「意中のヒロインが他の男とやること」というより直截的な定義づけも行われている。

2.2 定義間の相違点と共通点

本報告書で用いる NTR の定義を導出するために、

これらの定義における相違点と共通項を明確にする必要がある。まず相違点について述べる。

第一に、NTR の対象 (上図のプレイヤーB) に相違がある。つまり、「他人の夫・妻・愛人」や「特定の相手のいる女性」といったように、プレイヤーB・C 間に一定程度強い関係性が存在する場合にのみ NTR であるとする立場 (コトバの意味辞典, 2019) と、「自分が好意を寄せている人」や「意中のヒロイン」といったように、B・C 間に必ずしも強い関係性を要求しない立場 (荒井, 2014; はてなブログタグ, n.d.) が対立している (以下では、前者を「狭義の NTR」、後者を「広義の NTR」と呼ぶ)。

第二に、合意の要否についても対立が見られる。辞書的定義は「合意の上で肉体関係を持つ」としているため、明確に合意を要求している。一方で、他の定義では、NTR と認めるためにプレイヤー間に合意が必要であるかどうかは不明確である。

第三に、NTR の主体および客体 (上図のプレイヤーA・B・C) を男性ないし女性に限定するかどうかという対立がある。荒井 (2014) は明確に女性が男性に寝取られるのを NTR であるとしているのに対し、それ以外の定義では主体および客体の性別は限定されていない。

第四に、NTR が「行為」であるのか、「物語」であるのか、それとも「嗜好」であるのかも論者ごとに異なっている。つまり、はてなブログタグ (n.d.) では、「他の男とやる」という「行為」が NTR であると定義されているのに対し、荒井 (2014) ではそのような行為を描く「物語」が NTR であるとされている。またコトバの意味辞典 (2019) では、「性的な接触を持つこと」という「行為」、および「それに性的興奮を感じる嗜好」が NTR であるとされている。

他方の共通点としては次の 2 点がある。第一に、NTR と認められるためには、「性的な関係性」(肉体関係、性的な接触、やること)が必要とされること、言い換えれば単なる心移りは NTR に含まれないことには同意がある。

第二に、プレイヤーB・C 間における心理的關係性については言及が見られない。つまり、上述のように、この関係性が「夫・妻・愛人」のように特定の相手を前提とするかしないかには不同意が見られる。しかし、たとえばプレイヤーA が登場し行為に及んだ以後においてもプレイヤーB はプレイヤーC

に対して愛情を抱いているといったような、そういったプレイヤーB・C間における特定の心理的関係性は要求されないという点については同意が見られるようである。

2.3 相違点の検討と本報告書で用いる定義

次にこれらの定義を基に本報告書で用いる定義を導出するため、上述3つの相違点について検討する。第一の相違点については、本報告書では狭義のNTRを対象とする。なぜなら、仮に広義のNTRを定義として採用した場合、研究の対象が広がりすぎる恐れがあるからである。つまり、広義のNTRとは、プレイヤーB・C間に一定程度強い関係性（たとえば、夫婦関係や恋人関係）を要求せず、弱い関係性（たとえば、単に恋心や憧れを持っている場合）のみを要求する立場である。そのため、仮に広義のNTRを採用すると、たとえば、恋心や愛情を（一方的に）寄せる相手（アイドルや声優など）が結婚したといった場合もNTRに含まれることになる。しかし、このような場合をNTRに含むことは、NTRの定義を過度に広げ、帰結として研究結果の解釈を困難にする危険性が高い。そのため、本報告書では、狭義のNTRを検討対象とする。

第二の相違点については、少なくともプレイヤーA・B間には合意が必要であると考え。なぜなら、仮に合意が不要であると考えた場合には、他の大きな性的ジャンルである「レイプもの」や「痴漢もの」と区別することができなくなるからである¹。

第三の相違点については、NTRの主体および客体の性別は問わないこととする。なぜなら、上述のようにNTRは2018年の同人誌において最も人気を集めたジャンルであるが、この人気は男女を問わないものであったことが示されており（FANZA, 2018）、そうであるとすればプレイヤーの性別も限定する必

要はないからである。

第四の相違点については、本報告書ではNTRを「行為」ないし「物語」として理解することとする。ある「行為」と、それを好むかという「嗜好」は本来別の水準の話であるにもかかわらずそれらを混同することは議論の混乱につながる恐れがある。そのため、「嗜好」はNTRの定義に含まれるべきではない。また、「物語」に限定するとした場合、実際に行われたNTR行為は除外されることになる。実際に寝取り・寝取られた場合とフィクションとしてNTRを楽しむことには相違が存在することは事実であろう。そのため、調査の段階においては実際の場合なのかフィクションとして楽しむ場合であるのかを明確にする必要があると思われる。しかし、いずれにしても定義の段階においてどちらかの場合に限定し、他方を完全に除外する必要は乏しいと考えられる。よって、本報告書では、実際の行為および物語を含むものとしてNTRを理解することとする。

以上の議論から、本報告書では、「①夫・妻・恋人などの一定程度強い関係性を有する2者のうち1者と、②合意の上で、③肉体関係を持つ、④実際ないし物語上の行為」がNTRであると定義する。

3. NTRが選好される理由に関する既存の議論

NTRが選好される理由についてはこれまで多数の論者が自説を展開している。そこで本章ではまずそれらの説をアットランダムにいくつか列挙し共通項と考えられる要素を抽出した後、それらの整理を試みる。

しかし、それに先立ちまず排除しておかなければならないのは、「NTRは単なるネットミームであり、多くの人々は実際にそれに性的興奮を覚えていないのではないか」という可能性である。つまり、たとえばいわゆる「淫夢語録」というネットミームを用いるネットユーザーの多くが実際にはゲイ的な性的志向（嗜好）を有していないのと同様に、NTRを好むような書き込みをするネットユーザーもそもそも実際にはNTRを選好していないのではないかとこの可能性が考えられる。しかし、このような可能性は以下の調査データから否定しうる。第一に、NTRに関する調査では、NTRに対して肯定的な態度を有する人々が一定程度存在することが示唆されている。

¹ とはいえ、当初は合意がなかったものの行為ないし物語が進むにつれて合意が形成されていくといったような中間的な場合も存在する。そのため、合意の要否は「あるか、ないか」で一義的に決まるものではなく、ある程度のグラデーションを持つものとして理解するべきであろう。この点に注意を促す指摘として、NTRを「寝取られていた事実を後から知るパターン」と「意図して寝取られるを図る」パターンに分類する知り合いの人妻(n.d.)を参照。

Qjira (n.d.) では、「もしパートナーを寝取られたら？性的興奮などの感覚は」という質問に対して「ある」と回答した人は2,729人であり、サンプルの41%を占めたことが報告されている。またアキラ (2020) でも、「自分の妻や彼女を寝取らせてみたい、寝取られてみたいと思いますか？」との質問に対する回答の比率は、「すでに経験済みで現行の趣味」(8人; 8.7%)、「まだ実践できていないけど活動中」(12人; 13.0%)、「未経験だけど興味はある」(20人; 21.7%)、「絶対にありえない」(42人; 45.7%)、「経験したけどなし」² (10人; 10.9%) であり、NTRに対して肯定的な前三者の合計の回答比率(43.4%)は、否定的な態度を示す四番目の回答とほぼ同比率であったことを報告している。第二に、上で引用したFANZA (2018)で示されるように、多くの人々は実際にNTRに関する同人誌を検索し、おそらくその一部は同人誌を購入している。同人誌を購入するには当然金銭が必要であり、NTRが実際には人気がないのであれば、ランキングにおいてこれほど高いランクを占めることはなかっただろう。これらの調査や結果を考慮に入れれば、「NTRは実際には選好されていない」という可能性は排除しうると考えられる。

その上で、以下ではNTRが選好される理由を複数列挙する。

第一に、AV男優の及川 (2019) は、NTRは「寝取る側」に感情移入する視聴者のニーズに答えるものであり、そのニーズは、(a) 他人の妻や彼女は綺麗に見える(「隣の芝は青く見える」という審美的なニーズおよび、(b) 他人の夫や彼氏よりも自分の方が女性を満足させられるという承認欲求に関わるニーズの2つがあると指摘している。

第二に、ブロガーのアキラ (2020) は、実際にNTRを経験したことのある男女へのインタビューを通じて、NTRの魅力は、(a) 自分とのセックスではしなかった表情や感じ方が見られること、(b) 強い優越感が得られること、(c) NTRから帰ってきた相手の話を聞いて興奮できることの3つにまとめている。

第三に、同じくブロガーのエム (n.d.) は、(a) 女性の乱れる姿を見たい、(b) 嫉妬心が対抗心に変化すること、(c) 歪んだ優越感の3つが「寝取られ願

望のある」「年下彼」によってNTRを体験させられた際に男性側にあった動機であったと述べている。

第四に、同様にブロガーのみた (2016) は、(a) 自分に自信がないため、彼女を他人に抱いてもらって気持ちよくしてあげてほしいという願望、(b) 女性になりたいという願望、(c) その人(上図でいうプレイヤーB)が病的に好きという3つの理由を挙げている。

以上のように、NTRを体験した者あるいはそのような物語を消費する側の論者からの意見は非常に多様であり、何らかの形で理論的に整理する必要がある。その際には参考になり得るものとして、不在通知 (2016) による「感情移入」に着目した整理がある。この整理では、NTRに求めるものを、(a) NTRされてしまう状況に興奮するパターンと、(b) NTRを受け入れてしまう状況に興奮するパターンに区別している。前者は、「快樂にのまれる」「男性にいいように使われてしまっている」という、いわば「快樂の奴隷」にされているという状況に興奮するパターンであり、後者はNTRを受け入れてしまっている自分、すなわち「自分の意志」が奪われているという状況に興奮するパターンである。そして、このように整理した上で、NTRに参加するプレイヤーのうち誰に感情移入するかによって優勢となるパターン(すなわちNTRに求めるもの)が異なってくる可能性を示唆している。

この議論を上で示したFigure 1および定義に引き付けて考えると、感情移入と動機のパターンは以下のように整理することができる。すなわち、プレイヤーAに感情移入する場合には、一定の関係性を有する相手が存在する女性(ないし男性)を奪ったという性的な優越感を得ることがNTRの訴求力となる。プレイヤーBに感情移入する場合には、一定の関係性を有する相手(プレイヤーC)によっては提供されなかった快樂を得ることがNTRの訴求力と

Table 1
感情移入の対象と優勢となるパターンの理論的整理

感情移入の対象	優勢となるパターン
プレイヤーA	性的優越感
プレイヤーB	性的快樂
プレイヤーC	性的関心 および マゾヒズム的快樂

² 原文ママであり、何が「なし」なのかは不明である。

なる。プレイヤーCに感情移入する場合には、これまで知らなかった相手（プレイヤーB）の一面が知れるという性的関心を満たすこと、およびそれによって嫉妬心（エム, n.d.）や背徳感（知り合いの人妻, n.d.）といった形で表面化する「自分の意志」（不在通知, 2016）が奪われているというマゾヒズム的快楽を得ることがNTRの訴求力となる。以上の理論的整理をまとめるとTable 1のようになる。

4. 進化心理学の基本的前提との適合性

以上本報告書では、NTRを定義し（第2章）、どのような理由によってNTRが選好されているか（第3章）を検討してきた。本章では、NTRへの選好を学術的文脈に位置付けるべく、上で整理されたNTRへの選好が進化心理学の基本的前提とどの程度適合するかを検討する。しかし、それに先立ち、まず進化心理学とはどのようなものなのかを確認しておく必要がある。そこで以下本章では、進化心理学の基本的な前提を紹介し（第1節）、その上でそれらの基本的な前提が第2章で整理されたNTR選好の理由と理論的に適合しうるのかを検討する。

4.1 進化心理学の基本的な考え方

進化心理学とは、進化論（Darwin, 1859）の観点から、心理的事象の解明を試みる学問分野である（Tooby & Cosmides, 2015）。進化心理学は、従来の行動科学（心理学、経済学、哲学など）が「心理的メカニズムは人々の心という『白紙』（タブラ・ラサ）に後天的に書き込まれる」という基本的前提を有していたことを批判し³、「心理的メカニズムは進化の過程で獲得された生得的なものである」と論じる。より具体的に述べると、進化心理学の立場からは、人が持つ心理的メカニズムは、（少なくとも人間の進化のいずれかの段階においては）生存にとって適合的⁴であったがゆえに獲得されたものであると理解

³ 進化心理学では、このような基本的前提を有する行動科学は「通常社会科学モデル（Standard Social Science Model: SSSM）」と呼ばれる。

⁴ 「生存にとって適合的」という表現が、「自分の生存にとって適合的」とあることを意味するのか、それとも「自分が有する遺伝子にとって適合的」とあることを意味するのかについては長い

される。

このような進化心理学の考え方は、攻撃行動や差別など多くの研究分野に応用されてきた。しかしその中で本報告書の主題であるNTRと最も密接に関連するのは、結婚・恋愛の相手選択（mating）に関する研究である（e.g., Buss, 1989; Buss & Schmitt, 1993）。これらの研究の中でも特に性的な選好の男女差に焦点を当てた理論の1つである性的戦略理論（Buss & Schmitt, 1993）では、結婚・恋愛の相手選択は次のように説明される。まず、相手選択は、どのような相手を選択することが生存にとって適合的であるかという観点から行われる。しかし、生物学的な男女は生殖に対する投資（investment）の点で相違がある。つまり、女性は生殖に際して少なくとも胎児を体内に宿している数か月の間は移動が制限されるなどの点で大きな投資を要求されるのに対し、男性はそのような投資を要求されるわけではない。このような相違に起因し、女性は自分が生殖に対して投資をしている間に自分の投資を何らかの形で補償する必要が生じる。その手法の1つは子どもの親となる男性に頼ることであるため、女性は男性と比べて、資源を獲得する男性の能力を重視する傾向にある。それに対して男性にとっては、生殖を行おうとする相手の女性に子孫を残す能力があるか（fertileであるか）が重要となる。そして女性の外見はそのような能力を表す指標の1つであるため、男性は女性と比べて相手の外見を重視する傾向にある。性的戦略理論では、男女間の相手選択の選好は以上のように説明される。

4.2 NTR 選好の理由との適合性

以上のように、進化心理学ないしそれを性的戦略に応用した理論では、人の性的選好ないし行動は、生存ないしそのための生殖に対する適合性という観点から決定されると論じられる。しかし、進化心理学のこのような考え方は、第2章で述べたNTR選好の理由の一部とは適合的でないように思われる。つまり、上述のように、NTR選好の理由は、どのプレイヤーに感情移入するかという観点から、（a）性的

議論が存在する（たとえばDawkins, 2006/2006などを参照）。しかし、本論文の主題にとってはどちらの立場をとっても結論に相違は生じないため、この点については立ち入らない。

優越感, (b) 性的快楽, (c) 性的関心, (d) マゾヒズム的快楽の4つに整理された。これらを順に検討すると、まず性的優越感は進化心理学の基本的前提と適合的である。なぜなら、一定の関係性を有する相手が存在するプレイヤーを奪うことは自身の生存にとって適合的であるからである。それに対して、マゾヒズム的快楽はあらゆる意味で生存にとって適合的ではないように思われる。なぜなら、これは性的優越感の裏返しとして、自分（プレイヤーC）からみれば関係性を有する相手（プレイヤーB）を奪われること、およびそれによって生存の可能性が低減することを意味するからである。また、性的快楽と性的関心については、快楽を得るパートナーを持つこと、およびそのパートナーの知らなかった一面を知ることが生存の可能性に直接影響するわけではないため、生存にとっての適合性は中立的である。以上の関係を図示したのが Table 2 である。

Table 2

優勢となるパターンと生存にとっての適合性の関係

優勢となるパターン	生存にとっての適合性
性的優越感	○
性的快楽	-
性的関心	-
マゾヒズム的快楽	×

注) ○: 適合的; ×: 非適合的; -: 中立的。

5. 用いる手法と仮説

5.1 用いる手法の検討

以上の議論を基に、本報告書では、人々がどのような理由で NTR を選好するかを実証的に検討することを目的とする。しかし、この目的を達成するに際してどのような手法を用いるかについてはさらに検討しておくべきことが残されている。

第一に調査の水準である。従来の調査（アキラ, 2020; Qjira, n.d.）では、「もしパートナーを寝取られたら？」などといった状況を限定しない一般的な形で調査が行われていた。しかし、上述のように NTR の定義が論者によって異なることを鑑みれば、このような一般的・抽象的な形で調査を行うことは、回答者間で異なる「NTR」が想起され、結果として回答に予期しない影響が生じる危険性がある。このよ

うな場合に用いられる手法としてシナリオ法（ないしビネット法）と呼ばれる手法がある。シナリオ法とは、その名の通り、何らかのシナリオ（ビネット）を提示し、それに対する回答を求める手法であり、回答者間で想起される事象を統制できるという利点がある。本報告書でもこの利点に着目し、シナリオ法を用いる。具体的には NTR を描写したシナリオを作成し、それを回答者に提示した上で回答を求める。

第二に、NTR を実際の行為として提示するか物語として提示するかである。上述のように、本報告書では NTR を実際の行為と物語の両方を含むものとして定義した。しかし、実際の行為としての NTR に対する態度と物語としての NTR に対する態度はそれぞれ異なる可能性が考えられる。そして、そうであるとすれば、どちらかを明示せずに調査を行った場合、回答者ごとに実際の行為と物語のどちらとして回答するかが異なり、結果としてデータが不正確なものになりかねない。したがって、実際に調査を行う段階ではどちらが対象とされているのかを明示する必要がある。そこで本調査でどちらを対象とするかが問題となるが、本調査がそもそも同人誌界隈において NTR を題材とした創作物が流行したこと（FANZA, 2018）を念頭に置いて計画されたものであることを鑑み、本調査では物語としての NTR を対象とする。

第三に、NTR を選好する理由の尋ね方も検討しておく必要がある。相手選択に関する進化心理学では、自分がどのような理由で特定の性的交渉の相手を選ぶかは当人にも分からないことが多いことが指摘されている（Buss & Schmitt, 1993）。この指摘からすれば、NTR についても同様に、NTR をなぜ選好するかは当人にとっても分からない可能性がある。そのため、「なぜあなたは NTR を好みますか」と単純に尋ねるだけでは不十分である。そのため本報告書では、シナリオを提示した上で、「どの登場人物に感情移入しましたか」という質問を含めることで、選好理由を潜在的な形で把握することとする。このような形で選好理由が把握できると考えられるのは、上述のようにどのプレイヤーに感情移入するかによって、優勢となるパターンが異なってくるという理論的整理に基づく。つまり、寝取る側（プレイヤーA）に感情移入する人は、NTR によって性的な優越感を感じられるという理由から NTR を選好することが多

いと考えられる。それに対し、寝取る側に感情移入しつつ、NTRによってたとえばマゾヒズム的快楽を感じることは非常に困難であるため、そのような理由は取られないと考えられる。とはいえ、感情移入と実際の理由は異なることも考えられるため、感情移入によって理由を潜在的に測定する項目と、理由を直接的に尋ねることで理由を顕在的に測定する項目の両者を含めることで、より包括的な理解を得ることを試みる。

5.2 仮説の提示

以上の議論および手法を前提として、本報告書で検証する仮説は以下の4点である。第一および第二の仮説は潜在的理由に関するものである。

仮説1：プレイヤーAに感情移入するほど、NTRは選好される

仮説2：プレイヤーCに感情移入するほど、NTRは選好されない

この仮説は上述の進化心理学の基本的考え方から導かれる。つまり、進化心理学では、性的相手の選択は選択された相手が自分の生存にとって適合的かどうかという観点から行われると考えられる。この点を敷衍すれば、NTRというジャンルへの選好も、NTRが自分にとって適合的であるという理由から行われることが予測される。上述のように、NTR選好の潜在的理由は、プレイヤーAに感情移入した場合には性的優越感、プレイヤーBに感情移入した場合には性的快楽、プレイヤーCに感情移入した場合には性的関心およびマゾヒズム的快楽が優勢となる(Table 1)。そして、これらのパターンのうち、性的優越感は生存にとって適合的であるのに対し、マゾヒズム的快楽は生存にとって適合的ではない(Table 2)。したがって、進化心理学が主張するように、生存にとって適合的な心理メカニズムが選択されるとすれば、プレイヤーAに感情移入するほどNTRは選好され(仮説1)、逆にプレイヤーCに感情移入するほどNTRは選好されない(仮説2)ことが予測される。

第三および第四の仮説は、顕在的理由に関するものである。

仮説3：NTRによって性的優越感を感じるほど、NTRは選好される。

仮説4：NTRによってマゾヒズム的快楽を感じるほど、NTRは選好されない。

これらの仮説も進化心理学の基本的前提に基づく。つまり、上述のようにNTR選好の潜在的理由は、プレイヤーAに感情移入した場合には性的優越感、プレイヤーBに感情移入した場合には性的快楽、プレイヤーCに感情移入した場合には性的関心およびマゾヒズム的快楽が優勢となる(Table 1)。そして、これらのパターンうち、性的優越感は生存にとって適合的であるのに対し、マゾヒズム的快楽はそうではない(Table 2)。したがって、進化心理学が主張するように、生存にとって適合的な心理メカニズムが選択されるとすれば、性的優越感を感じるほどNTRは選好され(仮説3)、逆にマゾヒズム的快楽を感じるほどNTRは選好されない(仮説4)ことが予想される。

以下では調査によってこれらの仮説が支持し得るかを検証する。

6. 調査手法

6.1 手続きと調査協力者

ウェブ調査会社に依頼し、調査協力者を募集した。具体的には、調査内容を含んだページを同社のページに掲示し、それに関心を持ったモニターが回答に進んだ。

また本調査が性的なコンテンツをテーマとするものであることから、18歳以上のモニターのみを対象とした。さらに、倫理的配慮として、質問ページの冒頭に本調査が性的にセンシティブな内容を含むこと、およびそのような内容を不快に思う方は回答を控えてもらうよう教示した。

最終的に調査に回答したのは300名であった。しかし、そのうち64人は次節で述べるトラップ項目に正しく回答できていなかった。そのため、これらを除外した合計236名(女性123名、男性113名、平均年齢51.08歳、 $SD = 12.27$)のデータを分析の対象とした。

6.2 設問内容

設問ページには以下の内容が含まれた⁵。なお、感情移入（潜在的動機）と性的興奮（顕在的動機）の項目は、回答の順序による回答の歪みを避けるため、それぞれのブロック内でランダムな順序で提示された。

6.2.1 シナリオ 設問ページの冒頭でシナリオを提示した。このシナリオは FANZA (<https://www.dm.m.co.jp>) や DLsite (<https://dlsite.com>) 掲載の創作物の説明を参考にしつつ、上述の定義に沿うよう作成したものである⁶。

シナリオのあらすじとしては、夫を持つ女性を別の男性が寝取るというものであった。回答者に提示した具体的な内容は以下の通りである。「幼馴染だった『紗耶香』と『真人』。大学卒業をきっかけに結婚した二人だが、入社して数年経ったころ、真人は遠方への転勤を命じられた。別の会社に勤める紗耶香は仕事を辞めることができず、やむなく二人は離れて暮らすことになった。ある日、紗耶香はちょっとした気のゆるみから会社に莫大な損害をもたらすミスをしてしまう。動揺する紗耶香の前に現れた直属の上司『晃一』。晃一は、自分ならミスをなかったことにできると言い、そのかわりに紗耶香に体の関係を求めてきた。真人のことを思いためらう紗耶香だったが、しつこく食い下がる晃一に半ば強引に体を許してしまう。味をしめた晃一は、その後何度も体を求めた。真人を裏切ることはできないと思いその度に抵抗する紗耶香だったが、晃一との体の相性にひかれ、次第に晃一を受け入れるようになっていく。

上述の定義では、NTR に関与するプレイヤーの性別を限定しないこととしていた。それにもかかわらずここで「男性の相手を持つ女性を男性が寝取る」として性別を限定した理由は、調査上の実際的な制約に基づく。つまり、用いたウェブ調査会社のサービスでは、質問紙を回答者間にランダムに提示することが困難であり、性別の組み合わせを1つに絞る必要があった。そこで本調査では、最も「一般的

な組み合わせであると考えられる「男性の相手を持つ女性を男性が寝取る」というシナリオを提示した⁷。

きちんとシナリオを読んだ人のみを分析の対象とするため、このシナリオを提示した後に、内容に関する簡単な問題（『紗耶香』の夫は『晃一』である、『紗耶香』の上司は『真人』である、『真人』は『晃一』の部下である）を提示し、これら3つの問題に誤って回答した（すなわち、これらの文章が「正しい」と回答した）64名は分析から除外した。

6.2.2 NTR への選好 このシナリオをどの程度好むかを尋ねた。「全く好まない」(1) から「非常に好む」(5) の5件法での回答を求めた。値が大きいほど、このシナリオを好むことを意味する。

6.2.3 感情移入（潜在的動機） NTR 選好の潜在的な動機を測定するため、上記のシナリオに含まれる「晃一」（上図のプレイヤーA、以下「上司」とする）、「紗耶香」（上図のプレイヤーB、以下「妻」とする）、「真人」（上図のプレイヤーC、「夫」とする）の3名に対してシナリオを読む際にどの程度感情移入したかを尋ねた。「まったくしなかった」(1) から「非常にした」(5) の5件法での回答を求めた。値が大きいほど、当該の登場人物に感情移入したことを意味する。

6.2.4 性的興奮（顕在的動機） NTR 選好の顕在的動機を測定するため、上記のシナリオを読む際に以下の点にどの程度性的興奮を覚えたかを尋ねた。具体的には、誰に感情移入するかで優勢となるパターンに関する上述の理論的考察 (Table 2) をもとに、「性的な優越感が得られること」、「性的な快感が得られること」、「相手の知らなかった一面が見られること」、「マゾヒズム的な快感が得られること」の4項目を設定した。各項目に「全く覚えない」(1) から「非常に覚える」(5) の5件法で回答を求めた。値が大きいほど、当該の点に性的興奮を覚えたことを意味する。

6.3 データ分析

データ分析には、記述統計の計算には無料の統計ソフトである HAD ver. 16.0 (清水, 2016) を、重回帰分析には同じく無料の統計ソフトである R ver. 3.6.3 を用いた。

⁵ 具体的な提示の仕方については、【設問内容 PDF】を参照。

⁶ また、ここに含まれる人名は、ランダムな人名を生成する「すごい名前生成器」(<https://namegen.jp>) を用いて生成した。

⁷ このように性別の組み合わせを限定したことに起因する限界については考察で再度論じる。

また、進化心理学では上述のように男女の性的戦略の相違が論じられている (e.g., Buss, 1989)。この点を鑑み、分析は男女を分けて進める。今後の研究への予備的知見を提供するため全体群での結果も併記するが、考察は主として男女を分けた結果に依拠することとする。

7. 分析

7.1 記述統計と男女差の検討

データの全体的な傾向を確認するために、各変数の平均値 (M)、標準偏差 (SD) を算出し (回答の単純集計については、【単純集計 PDF】を参照)、その上で男女間の差の検定を行った (Table 3)。検定には、Welch の t 検定を用いた。その結果、NTR への選好と妻への感情移入を除けばすべての変数について男性の値の方が女性の値と比べて有意に高かった。つまり、このシナリオで提示された NTR を好むか、および登場人物である妻に感情移入する程度には男女で違いがあるとは言えないものの、他の変数については女性よりも男性の方が統計的に有意に高い確率で肯定的に回答することが示された。

次に、各変数間の相関係数を算出した。男女群での結果を Table 4 に、全体群での結果を Table 5 に示す。年齢と性別を除けばすべての変数間で、かつすべての群で有意な相関が見られた。

7.2 重回帰分析

仮説を検証するため、NTR への選好を従属変数とした重回帰分析を行った。最初にすべての変数を強制投入したモデルを検討したところ、女性群で VIF

が 8.61 と高い値を示した変数があった。一般に VIF が許容される上限は 10 とされることが多い。このモデルで得られた値は上限内には収まっているものの上限に近い値であり、得られた値が不正確になっている危険性があった。そのため、強制投入法ではなく、変数増減法のステップワイズによって変数を選択した上で分析を行った。変数の増減は AIC の値を基準とした。分析の結果得られた値を Table 6 に示す。空欄は分析の結果投入されなかった変数である。これらのモデルは $VIFs < 4.24$ であり、得られた結果は多重共線性によるものではないと判断できる。

まず女性群では、妻への感情移入、上司への感情移入、性的優越感、マゾヒズム的快楽が選択され、妻への感情移入以外は有意であった。つまり、潜在的動機については上司に感情移入しないほど、顕在的動機については NTR に性的優越感を覚えるほど、そしてマゾヒズム的な快楽を覚えるほど NTR を選好することが示された。

次に男性群では、夫への感情移入、上司への感情移入、性的快楽、マゾヒズム的快楽が選択され、夫への感情移入以外は有意であった。性的快楽は有意傾向であった。つまり、潜在的動機については、上司に感情移入するほど、顕在的動機についてはマゾヒズム的な快楽を覚えるほど NTR を選好することが示された。

最後に全体群の結果を見ると、妻への感情移入、夫への感情移入、性的優越感、マゾヒズム的快楽が選択され、すべて有意であった。つまり、潜在的動機については、妻に感情移入するほど、そして夫に感情移入しないほど NTR を選好することが示された。他方の顕在的動機については、NTR に性的な優

Table 3
女性群 ($n = 123$) および男性群 ($n = 113$) における平均値 (M)、標準偏差 (SD) および男女間の差の検定

	女性群		男性群		全体群		t -value	p -value	Hedges' d
	M	SD	M	SD	M	SD			
NTRへの選好	2.09	1.06	2.27	1.04	2.17	1.06	$t(232.97) = 1.28$.20	-.17
上司への感情移入	1.67	0.90	2.28	1.21	1.97	1.10	$t(206.43) = 4.36$	<.01 **	-.57
妻への感情移入	2.07	1.11	2.27	1.04	2.17	1.08	$t(233.94) = 1.38$.17	-.18
夫への感情移入	1.93	0.97	2.43	1.17	2.17	1.10	$t(217.87) = 3.60$	<.01 **	-.47
性的優越感	1.93	1.01	2.45	1.06	2.18	1.07	$t(230.12) = 3.82$	<.01 **	-.50
性的快楽	2.05	1.10	2.63	1.16	2.33	1.16	$t(229.71) = 3.93$	<.01 **	-.51
性的関心	2.12	1.10	2.58	1.10	2.34	1.12	$t(232.24) = 3.16$	<.01 **	-.41
マゾヒズム的快楽	1.89	1.00	2.22	0.93	2.05	0.98	$t(233.93) = 2.60$	<.01 **	-.34

** $p < .01$.

Table 4
女性群 (n = 123) および男性群 (n = 113) における変数の相関係数

変数名	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1 NTRへの選好		.55 **	.45 **	.23 *	.58 **	.55 **	.53 **	.58 **	-.19 *
2 上司への感情移入	.48 **		.63 **	.37 **	.72 **	.55 **	.55 **	.51 **	-.02
3 妻への感情移入	.61 **	.70 **		.62 **	.43 **	.54 **	.58 **	.56 **	-.02
4 夫への感情移入	.39 **	.52 **	.64 **		.32 **	.38 **	.54 **	.51 **	.09
5 性的優越感	.74 **	.71 **	.76 **	.57 **		.76 **	.67 **	.65 **	-.23 *
6 性的快楽	.72 **	.66 **	.73 **	.54 **	.92 **		.72 **	.67 **	-.25 **
7 性的関心	.66 **	.56 **	.68 **	.53 **	.82 **	.85 **		.74 **	-.14
8 マゾヒズム的快楽	.68 **	.71 **	.70 **	.52 **	.84 **	.83 **	.78 **		-.14
9 年齢	-.07	.03	-.06	.06	-.08	-.05	-.06	-.04	

注) 対角線左下が女性, 対角線右上が男性。** $p < .01$, * $p < .05$ 。

Table 5
全体群 (N = 236) における変数の相関係数

変数名	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1 NTRへの選好									
2 上司への感情移入	.51 **								
3 妻への感情移入	.54 **	.65 **							
4 夫への感情移入	.31 **	.47 **	.62 **						
5 性的優越感	.66 **	.73 **	.60 **	.46 **					
6 性的快楽	.64 **	.62 **	.64 **	.48 **	.85 **				
7 性的関心	.60 **	.57 **	.63 **	.56 **	.76 **	.79 **			
8 マゾヒズム的快楽	.64 **	.61 **	.64 **	.53 **	.75 **	.76 **	.77 **		
9 年齢	-.09	.09	-.01	.14 *	-.06	-.05	-.02	-.03	
10 性別 (女性=0, 男性=1)	.08	.28 **	.09	.23 **	.24 **	.25 **	.20 **	.17 *	.32 **

** $p < .01$, * $p < .05$ 。

Table 6
全体群, 女性群, 男性群におけるNTRへの選好を従属変数とした階層的重回帰分析の結果

変数名	女性群			男性群			全体群		
	B	SE	β	B	SE	β	B	SE	β
上司への感情移入	-.25	.11	-.21 *	.27	.08	.32 **			
妻への感情移入	.14	.09	.15				.22	.07	.22 **
夫への感情移入				-.13	.07	-.15	-.15	.06	-.15 **
性的優越感	.60	.13	.57 **				.37	.07	.38 **
性的快楽				.16	.09	.18 †			
性的関心									
マゾヒズム的快楽	.26	.12	.25 *	.42	.12	.38 **	.32	.08	.29 **
年齢									
性別 (女性=0, 男性=1)									
R^2			.58**			.46**			.51**
adj. R^2			.57**			.44**			.50**

注) 表中のBは非標準化偏回帰係数を, SEは標準誤差を, β は標準化偏回帰係数を表す。** $p < .01$, * $p < .05$, † $p < .10$ 。

越感を覚えるほど, そしてマゾヒズム的な快楽を覚えるほど, NTRを選好することが示された。

なお, 男女両群でモデルに含まれた上司への感情移入とマゾヒズム的快楽について, 回帰係数に男女で差があるかを Paternoster, Brame, Mazerolle, & Piq-

uerro (1998) の手法を用いて検証した。その結果, 上司への感情移入についても ($z = 14.87, p < .01$), マゾヒズム的快楽についても ($z = 2.70, p = .01$), 有意な差が見られた。つまり, 男性は女性と比べて有意に, 上司に感情移入するほど, そしてマゾヒズム

的な快楽を覚えるほど NTR を選好することが示された。

8. 考察

以上本報告書では、人々がどのような理由で NTR を選好するのか、そしてその理由は進化心理学の基本的な前提と適合的であるのかを検討するため、質問紙による調査を行った。以下では、分析の結果示されたことを潜在的動機と顕在的動機に分けて検討する。なお、Table 7 に仮説の内容を再掲し、それらが男女群それぞれにおいて支持されたか否かをまとめる。

Table 7
仮説の一覧と男女群における各仮説への支持

	内容	女性	男性
仮説1	プレイヤーAに感情移入するほど、NTRは選好される	△	○
仮説2	プレイヤーCに感情移入するほど、NTRは選好されない	×	×
仮説3	NTRによって性的優越感を感じるほど、NTRは選好される	○	×
仮説4	NTRによってマゾヒズム的快楽を感じるほど、NTRは選好されない	×	×

注)○: 支持; ×: 不支持; △: 不明確。

8.1 潜在的動機について

仮説1および仮説2はNTR選好の潜在的動機に関わるものであった。これらの仮説は進化心理学の「心理的メカニズムは生存にとって適合的か否かで決定される」という基本的な前提に基づいて設定されたものである。つまり、NTRは寝取る側であるプレイヤーAにとっては生存に適合的である。しかし奪われる側にとっては適合的ではない。このように考えると、寝取る側（プレイヤーA）に感情移入するほど（仮説1）、奪われる側（プレイヤーC）に感情移入しないほど、NTRが選好されると考えることが進化心理学の基本的な前提に合致する。

このような理論的仮説は実際に得られたデータによって支持されたのか。まず男性群について見ると、上司（プレイヤーA）への感情移入はNTRへの選好と有意な正の関連を示した。つまり上司に感情移入してNTRを読んだ男性ほどNTRを選好していた。この結果は仮説1と明確に適合的である。他方、仮説3については、夫への感情移入はモデルに投入さ

れ、その関連の方向性は負であったものの、その効果は有意水準には達していなかった。このことから仮説3は男性群において支持されなかった。

一方、女性群では上司への感情移入の効果は男性群と異なり負の値であった。つまり、上司に感情移入しない女性ほどNTRを選好すること（逆に言えば、上司に感情移入する女性ほどNTRを選好しないこと）が示された。上記の仮説1を「NTRを選好するかどうかに関してはプレイヤーAに感情移入できるかどうか重要となる」と読み解けば、同仮説と整合的であるとも捉えられる。しかしそのように読み解くことが進化心理学の観点から妥当であるかには疑問も残る。本調査で用いたシナリオでは上司が男性であったという調査の特殊性もある。現段階では今後の課題としておくべきであろう。したがって、女性群において仮説1が支持されたのか否かは現状では不明である。

また、女性群では男性群と同じように夫への感情移入の効果は有意水準に達していなかった。このことから女性群において仮説2は支持されなかった。

8.2 顕在的動機について

仮説3および仮説4は、NTR選好の顕在的動機に関わるものであった。これらの仮説も進化心理学の基本的な前提に基づくものであった。

結果としては、女性群においては性的優越感がNTRへの選好と正の関連を示し、仮説3は支持された。しかしそれに対し、男性群においては性的優越感モデルに投入されず、有意とはならなかった。そのため男性群においては仮説3は支持されなかった。

また仮説4については、マゾヒズム的快楽は男女両群において有意な関連を示したが、その関連の方向性は仮説と異なり正であった。そのため仮説4は男女両群において支持されなかった。

上述のようにマゾヒズム的快楽は生存にとって最も適合的でない動機である。そのため、マゾヒズム的な快楽を覚えるほどNTRを選好するという結果は進化心理学の観点からは説明しづらいように思われる。今後はマゾヒズムの心理について検討していくことが有益であろう。

8.3 その他の知見

仮説には含まれていないがその他特記に値する知見として以下の点がある。すなわち、女性と比べて男性の方が NTR に対して肯定的な態度をとっていた。アキラ (2020) は、男性においては NTR の肯定派と否定派が概ね拮抗していたという上述の結果に加え、「彼氏や旦那などのパートナーからお願いを受けて、寝取られた経験がある女性」へのアンケートを実施し、「イヤだった」と回答した人 (19 人; 67.9%) は「楽しめた」と回答した人 (9 人; 32.1%) より多かったことを報告している。女性と比べて男性の方が NTR に対して肯定的であるというアキラ (2020) の知見は、本報告書の結果はこの結果と方向性を同じくするものであり、ある程度頑健なものであると言える。

この相違を進化心理学の観点から考察すると、生殖に対する投資によるものと考えることができる。つまり、男性と比べて女性は生殖に対してより大きな投資を行う必要がある (Buss & Schmitt, 1993)。そうであるとすれば、女性はその投資を回収するためパートナーと安定した関係を築く動機付けがより強い。そのため、女性は、そのようなパートナー間の安定性を脅かす NTR という行為に対して否定的になるのだと考えられる。

8.4 結論

以上のことをまとめると、生存にとって適合的である寝取る側 (プレイヤーA) への感情移入と性的な優越感という動機に関わる仮説 (仮説 1 および仮説 3) は、男女で異なる形ではあったものの NTR への選好と有意な関連を示した。それに対して、生存にとって適合的でない奪われる側 (プレイヤーC) への感情移入とマゾヒズム的快樂という動機に関わる仮説 (仮説 2 および仮説 4) は男女両群において支持されなかった。以上の結果は、進化心理学の知見は、NTR を「選好する理由」(寝取る側への感情移入と性的な優越感) を説明するには適しているが、NTR を「選好しない理由」(奪われる側への感情移入とマゾヒズム的快樂) を説明するには適していない可能性があることを示唆していると捉えられる。

また、本リサーチの結果からは、NTR が現在の日本において人気を博している理由は以下のように考えられる。つまり、性的優越感とマゾヒズム的快樂

の双方が NTR への選好と有意な関連を示したことから、NTR には性的優越感とマゾヒズム的快樂という 2 つの嗜好に対して訴求力を有すると考えられる。そして、このような相反する 2 つの嗜好に同時に訴えかける力を有することで、単に 1 つの嗜好に対してしか訴求力を有しない性的ジャンルと比べて相対的に大きな人気を博したのではないかと考えられる。

8.5 今後の課題

本リサーチの今後の課題としては、以下の 4 点が挙げられる。第一に本調査はウェブ調査を通じて行われたものである。そのモニターには一定の偏りが見られる可能性は否定しきれない。今後はより代表性の高い調査を行い、本報告書で得られた知見の頑健性を検証する必要がある。

第二に、本調査では、「男女の夫婦の妻を男が寝取る」というシナリオを「物語」として提示したが、登場人物の性別の組み合わせは当然他にも存在する。本報告書によって NTR 選好に際しては感情移入が重要であることが示されたことからすれば、登場人物の性別の組み合わせに応じて当該のシナリオをどの程度選好するかも異なる可能性は高い。またたとえば「同性の夫婦に対して同性が寝取る」といったシナリオへの選好については、同性愛全般に対して持つ態度が影響を及ぼす可能性も考えられる。また、物語としての NTR に対する態度と実際の行為としての NTR に対する態度は異なる可能性が考えられる。これらの点については今後も検証を続ける必要がある。

第三に、本報告書では男女に分けて分析したが、どちらかに明確に分類できない (あるいはするべきではない) 性的マイノリティの人々も存在する。このような分析方針を採ったのは本調査で用いたウェブ調査会社では男女のデータしか提供されていないという実際的な限界によるものであり、そのような人々を無視する趣旨ではない。いずれにしても性的マイノリティの人々が NTR に対してどのような態度を有するのか、あるいは性的マイノリティを登場人物とした場合、本報告書の知見は維持されるのかは今後検証されるべきであろう。

第四に、本報告書ではマゾヒズムを生存にとって適合的でないものと理解して記述を行ってきたが、マゾヒズム的快樂および奪われる側への感情移入が

本当に生存にとって適格的でないのかにはさらなる検討の余地がある。つまり、マゾヒズムの性格づけについて多くの議論があるものの、その1つの要素として「自分よりも力のある者に決定権を委ねること」という要素を持つものとして理解することが許されるのであれば、むしろ生存にとって適格的であるとも捉える余地があるからである。いずれにしても今後はマゾヒズムについての検討を進めることが必要である。

引用文献

- アキラ (2020). NTR (寝取られ) とは? 寝取りフェチの夫や彼氏が妻や彼女を寝取られ感じた魅力や後悔した話 3 選 (<https://www.world-of-dawkins.com/sex/ntr>)
- 荒井 禎雄 (2014). 理解不能!? イマドキ日本人のニッチな性癖～NTR (寝取られ) とは何か? (https://news.infoseek.co.jp/article/knuckles_1063/)
- Buss, D. M. (1989). Conflict between the sexes: Strategic interference and the evocation of anger and upset. *Journal of Personality and Social Psychology*, 56, 735–747.
- Buss, D. M., & Schmitt, D. P. (1993). Sexual strategies theory: An evolutionary perspective on human mating. *Psychological Review*, 100, 204–232.
- Darwin, C. (1859). *On the origin of species*. London: John Murray. (ダーウィン, C., 八杉 龍一 (訳)(1990). 種の起源 上・下 岩波書店)
- Dawkins, R. (2006). *The selfish gene*. 3rd ed. Oxford: Oxford University Press. (ドーキンス, R., 日高 敏隆・岸 由二・羽田 節子・垂水 雄二 (訳)(2006). 利己的な遺伝子 増補新装版 紀伊國屋書店)
- エム (n.d.). 寝取られのやり方～寝取りをパートナーに見られて嫉妬されたい貴女に (<https://xn--1ck9b7c554s.com/%E5%AF%9D%E5%8F%96%E3%82%89%E3%82%8C%E3%83%97%E3%83%AC%E3%82%A4%E3%81%AE%E3%82%84%E3%82%8A%E6%96%B9/>)
- FANZA (2018). 【FANZA REPORT 2018 同人編】コミケ直前「同人に関する統計調査」緊急結果発表! (<https://special.dmm.co.jp/fanza/feed/news/fanza-report-2018-doujin>)
- 不在通知 (2016). NTR に何を求めているか (<http://huzai.hatenablog.com/entry/2016/05/08/NTR%E3%81%AB%E4%BD%95%E3%82%92%E6%B1%82%E3%82%81%E3%81%A6%E3%81%84%E3%82%8B%E3%81%AE%E3%81%8B>)
- はてなブログタグ (n.d.). NTR (<https://d.hatena.ne.jp/keyword/NTR>)
- コトバの意味辞典 (2019). 「ntr」とは? 意味や使い方をご紹介 (<https://word-dictionary.jp/posts/2870>)
- みた (2016). 寝取られ (通称 NTR) の魅力について説明します (<https://ch.nicovideo.jp/zinec/blomaga/ar1100298>)
- 及川大智 (2019). なぜ NTR は流行っているのか? (<https://oioi1006.tokyo/2019/09/15/ntr/>)
- Paternoster, R., Brame, R., Mazerolle, P., & Piquero, A. (1998). Using the correct statistical test for the equality of regression coefficients. *Criminology*, 36, 859–866.
- Qjira (n.d.). これまじ? 「寝取られ」アンケートが驚きの結果に・・・ (<http://qjira.jp/report/report001/>)
- 知り合いの人妻 (n.d.). 嫉妬、葛藤に苦悩するからこそ激しく興奮する…『寝取られ』という性癖の魅力 (<https://nan-net.com/wife/column/ntr.php>)
- Tooby, J., & Cosmides, L. (2015). The theoretical foundations of evolutionary psychology. In D. M. Buss (Ed.), *The Handbook of Evolutionary Psychology. Volume 1: Foundations* (2nd ed., pp. 3–87). Hoboken: John Wiley and Sons.